

「 釧路湿原自然再生協議会 」

第6回 再生普及小委員会

資 料

平成18年3月3日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

行動計画 WG

2005年度具体的取組み一覧

「資料1」

団体名	取組み概要	No
くしろ地球村	自然再生をテーマのひとつとしてとりあげた「地球環境講演会」を開催します	追
釧路湿原塾	自然再生をテーマとしたシンポジウムを開催します	追
達古武オートキャンプ場	写真コンテストの入選作品等の展示の場を提供します	追
	湿原の花や自然の情報を紹介します	追
	釧路湿原自然再生事業を啓発するポスター等の展示の場を提供します	追
	夏休み中、湿原の動・植物に関する講演会等の実施の場を提供します	追
ミュージカル「天狗のかくれ里」実行委員会	ミュージカル「天狗のかくれ里」会場で自然再生のPRを行います	追
FMくしろ	ラジオを通じて、季節によって変わる旬な湿原情報を提供します	1
NPO法人トラストサルン釧路	トラスト地におけるボランティア作業の受入れを行います	2
	植樹用の苗の育成協力者を募集します	3
NPO法人釧路湿原やちの会	温根内ビジターセンター駐車場の清掃活動を、シーズン中毎日行います	4
	21世紀の道ウォークラリーの開催	5
	「シーニックバイウェイ北海道」の釧路湿原・阿寒・摩周ルート環境整備提言をしています	6
	北斗の木道で小鳥巣箱を設置します	7
さとぼん(ハンドルネーム)	釧路湿原の魅力、歩き方に関する情報を発信します	8
	旅を通じて自然の美しさや大切さを、自然に感じられるような釧路湿原の情報発信をします	9
タンチョウとシマフクロウの会	タンチョウ営巣地復元に取組む十勝の試みを紹介し、湿地復元に関する技術的な情報を提供します	10
ボランティアネットワーク・チャレンジ隊	「じゅう箱のスミ」を媒体に、湿原再生の取組みやそこに关わる人々の姿をわかりやすく楽しく市民に発信します	11
	「釧路湿原“音”探検」を実施します	12
リンク・リング	オオワシの鉛中毒問題、エゾシカの諸問題など、野生生物と人との関わりを映像を使って伝えることに協力します	13
キャノン(株)コーポレートコミュニケーションセンター	「ジュニアフォトグラファーズin釧路湿原」を実施します	14
釧路国際ウェットランドセンター	湿原観察会を実施します	15
	ホームページによる釧路湿原の情報を発信します	16
	湿原に関するニュースレターを、英語版と日本語版で発行します	17
	ツルフォーラムを開催します	18

	技術委員会による研究活動を行います	19
	JICA研修を行います	20
	釧路、厚岸、霧多布の湿原とオーストラリアの湿地が姉妹提携し、情報、人的交流等を実施します	21
釧路市生涯学習センター	「湿原 ほたる講座」において、親子でほたるについて学習し、温根内にてほたる観察を行う	22
	「いきいき女性講座」において、釧路湿原の動植物の生態系や湿原の果たす役割などを学習します。	23
	「まなぼっとお達者塾『いきがい新発見』」においてノロコ号に乗って釧路湿原のすばらしさを実感し、自然の大切さを再認識します。	24
	「まなぼっと子ども探検隊」において、子ども達に自然体験をしてもらう	25
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	クリーンウォーク・観察会を開催します	26
	「1/4ウォーク」を開催し、釧路湿原国立公園周辺約80Kmを回ります。	27
釧路湿原国立公園連絡協議会	湿原に関する情報を毎月紙面で発行します	28
	ホームページによる釧路湿原の情報を発信します	29
	「釧路湿原こどもレンジャー」事業を実施します	30
	温根内ビジターセンターと塘路エコミュージアムセンターで行われるプログラムの情報共有と施設間の連携を図ります	31
釧路新聞社	釧路湿原に関する情報を、紙面を通じて発信します	32
釧路新聞社・釧路町観光協会・細岡ビクターズラウンジ	釧路湿原コンサートを開催します	33
高木 佐和子	釧路湿原周辺施設にて、楽器演奏(フルート)の協力をします	34
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	「釧路湿原川レンジャー」を募集し、活動を行います	35
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部・財団法人日本生態系協会	「くしる環境スクール」受講生で活動します	36
細岡ビクターズラウンジ	写真コンテストの入選作品等の展示の場を提供します	37
	年間を通して、湿原の花や自然を紹介します	38
	クリーンデイにあわせて、動植物に関する講演会実施の場を提供します	39
財団法人日本野鳥の会鶴居・伊藤タンチョウサクチュアリ	施設来訪者へのタンチョウの解説とスライドショーを行います	40
	タンチョウティーチャーズガイド講習会を実施します	41
	自然保護を目的とする学生組織「F・Aネットワーク」と協力しワークキャンプを実施します。	42
十勝夢ツーリズム協会	十勝川における水鳥観察ツアーの事例紹介。鳥類における農業被害に関する課題を地元農業者を交流しながら考えるツアーを、参考事例として紹介します。	43
太平洋総合コンサルタント(株)	湿原に関する環境教育を実施します	44

法政大学経済学部西澤ゼミナール	ゼミにおいて釧路湿原自然再生事業を調査・研究し、政策の提案をいたします。	45
北海道標茶高等学校	植物を利用した、釧路湿原の水質浄化に関する実験を行います。	46
	農家や各産業と連携した検討会や環境学習会を実施します	47
北島 万鈴	釧路湿原周辺施設にて、演奏(釧路湿原をイメージしたオリジナル曲)の協力をします	48
釧路湿原自然再生協議会	湿原流域の人が参加する交流会やワークショップ、検討会などを開催します	49
	様々な機会を利用して、釧路湿原自然再生全体構想を普及します	50
	自然再生の仕組みや動きについて、機会あるごとに冊子やインターネットで紹介していきます	51
	自然再生に関するパンフレットやニュースレターなどを、多く目にできるよう配布箇所を拡大していきます	52
	既存の自然系施設にて、最近の自然再生の情報をわかりやすく提供します	53
	自然再生の内容をわかりやすく伝えるため、また自然再生事業としての統一感を出すためにキャッチフレーズやロゴ、シンボルなどを作成します	54
	これまで各省庁・自治体が独自で発信してきた自然再生事業をまとめ、わかりやすく発信します	55
	自然再生に関する情報を、各種メディアを活用して継続的に紹介・発信し、情報にふれる機会を増やします	56
	釧路湿原自然再生協議会が作成したガイドブックを販売し、広く普及させることで自然再生についての仕組みや動きを広めます	57
	自然再生協議会への協賛や寄付金を募ります	58
	自然再生への協力者・協力団体などをホームページ等で紹介します	59
	釧路湿原について広く知ってもらうため、講師派遣や研修内容を提案します	60
釧路湿原自然再生協議会事務局	釧路湿原自然再生として今なに行われているのかを伝えます	61
釧路湿原自然再生協議会・再生普及行動計画WG・再生普及行動計画WG事務局	釧路湿原に関する情報、イベント、自然再生に関する情報を集約し、インターネット等により広く発信します	62
再生普及小委員会・再生普及行動計画WG	本計画の進捗状況や来年度に向けた改善や提案の検討を行います	63
再生普及行動計画WG	自然再生につながる取組みとその協力者を募集し、市民参加を進める仕組みやプログラムをつくります	64
釧路湿原自然再生協議会・再生普及行動計画WG事務局	自然再生や環境教育に関する取組みを行っているNPO等の民間活動を、各種メディアを活用して紹介します	65
再生普及行動計画WG事務局	(地元メディアを中心としたマスメディアを活用するため)情報収集・情報提供をします	66
環境省 他	釧路湿原の環境情報を集約してデータベースを作成します	67
NPO法人釧路湿原やちの会	修学旅行の中のメニューのひとつとして、自然再生を学んだり、作業に参加するプログラムを作成し、実践します	68
釧路シャケの会	サケの稚魚育成・放流を実施し、また協力者を募ります	69

釧路湿原自然再生普及行動計画

2005年度具体的取組み報告書(案) の一部

釧路湿原自然再生協議会

平成18年 月 日

2005 年度具体的取組み 報告

取組み概要	温根内ビジターセンター駐車場の清掃活動を、シーズン中毎日行います	
主催者	特定非営利法人 釧路湿原やちの会 2000年3月にNPO法人格を取得。修学旅行や企業の研修旅行等の受入れ、一般市民対象のツアー実施を通して、釧路湿原をフィールドに環境教育的な視点から様々な体験プログラムを実施している。	
取組みのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティのひとつとして、多くの人を訪れる場所の環境美化を行う ・湿原周辺で地域向けに、啓発活動を行う 	
実施の様子	実施期間	平成 17 年 5 月～10 月
	<p>釧路湿原やちの会では、シーズン中毎日JALライナーのオプションツアーを受入れ、温根内木道を案内しており、そこで、毎日ツアー客を案内する前に駐車場のゴミを拾い、環境美化に努めている。</p> <p>なお、集めたゴミは釧路土木現業所の協力により、道路管理パトロールカーが回収・処分を行っている。一日に出るゴミの量は買い物袋で約半分。また、不法投棄を発見した場合にはすぐに通報するという体制をとっている。</p>	
		
	<p>写真：集めたゴミは、道のロードコーンに置くと決め、道路管理パトロールカーがゴミ回収に協力している</p>	
主催者の感想	<p>継続することで、今年度はゴミが少ないように見受けられる。ゴミは在るところに集まると言われているが、今年は花火の跡や生ゴミなども見られず、カラスにあらされることもなくきれいである。</p> <p>集めたゴミを置く場所としている道のロードコーンが捨てられるなどのいたずらもあったが、大きな問題もなく行われた。</p>	
成果(評価)	評価手法	実施内容:実施の様子参照
	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路土木現業所の協力を得るなど、他組織と協力した取組みである。 ・この取組みに関して観光客の感想等を把握してはいないが、ゴミが無いということはホスピタリティのひとつとして重要なことである。 ・他施設からこの取組みに関して高い関心を持ってもらった。 	

2005 年度具体的取組み 報告

取組み概要	<p>釧路湿原の魅力、歩き方に関する情報を発信します。 旅を通じて自然の美しさや大切さを、自然に感じられるような釧路湿原の情報を発信します</p>
主催者	<p>さとぼん(ハンドルネーム) ホームページ「釧路湿原の歩き方」管理者</p>
取組みのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる釧路湿原の魅力や歩き方に関する情報発信 (サイト名:釧路湿原の歩き方) ・旅を通して自然の美しさや大切さを、自然に感じられるような釧路湿原の情報発信 ・湿原への関心を喚起するため、インターネットを通じて地域外の人を感じる湿原の魅力を発信する
実施の様子	<p>特徴</p> <p>釧路湿原を「歩いて」廻るためのガイドである。 このサイトでは「歩いて」というところがポイントです。公共交通機関で湿原周辺の観光ポイントにでかけるとどうなのかが判ります。初めて釧路を訪れる観光客にも親切的な解説です。</p> <p>釧路湿原をエリア別に紹介している。 釧路湿原はとにかく広いので、管理人は釧路湿原を6つのエリア(コッタロ、塘路、岩保木、北斗・温根内、茅沼・シラルト口、細岡・達古武)に分けて紹介しています。エリア毎に、アクセス・よい季節や日和(?)・どのようにすばらしいかなど、詳細に解説しています。</p> <p>観光客という視点から湿原を楽しんでいる。 このサイトでは釧路湿原を観光客の視点からどのようにすばらしいのかを具体的に紹介しています。また、地元の人からは「あたりまえ」と思える風景や事柄に、道外からの観光客はこういうところがうれしいのか、と気付かせてくれます。</p> <p>ホームページの内容</p> <p>釧路湿原散策ガイド・・・散策エリアを6つに分け、それぞれのエリアのアクセスや様子を紹介</p> <p>湿原日和・・・写真とともに釧路湿原の魅力や歩き方を紹介</p> <p>四季の風景・・・季節ごとの風景を紹介</p> <p>タンチョウを見に行く・・・タンチョウの生態からタンチョウを見るためのお勧めスポットを紹介</p> <p>二大聖地レポート1、2・・・宮島岬、キラコタン岬に出かけた様子を紹介</p> <p>釧路市街の歩き方・・・湿原の行き帰りに立ち寄れる市内のお勧めスポットを紹介</p> <p>掲示板・・・サイトに関する問合せや質問等が書き込める。</p> <p>リンク集・・・釧路湿原に関する情報が掲載されたサイトを紹介。</p>



トップページ



エリア別に見所を紹介しています



季節の風景写真が多く掲載されています



サイトマップ

アクセス数

4月 431、5月 565、6月 701、7月 711、8月 686、9月 491、10月 296、11月 260、12月、1月、2月、3月 合計

主催者の感想

サイト開設以来、春から夏にかけてアクセス数が急上昇し、夏を過ぎると急下降するという傾向があり、この傾向は今年も変わっていません。(北海道旅行者の動きと同様です)



しかし、なぜか11月～12月以降になるとアクセス数が少ないにもかかわらず冬の情報や丹頂の情報を探して掲示板に書き込まれる方が多くなる傾向があり、タンチョウと組み合わせて湿原を楽しみたいと思っていてもあまり情報がないため、情報を求めてこの時期に急に書き込みが増えるのではないかと推測しています。「タンチョウ＝冬の釧路湿原の風物詩」とは言っても、既存の情報(観光という視点)からは詳しい情報があまり発信されていないことが想像されます。(具体的な見方、楽しみ方、回り方、動き方、など)冬はどうしても観光客が少ないので、本当は魅力いっぱいな季節にもかかわらず表面的なニーズが少ないので、情報量も少ないのでしょうか？掲示板を見ていると、冬の情報を求める潜在的なニーズが意外に多いように感じられます。

成果(評価)

評価手法 | 発信回数: 回

- ・道外の視点により、地元ではなかなか気付かない釧路湿原の魅力の発信に貢献している
- ・観光情報だけでなく、自然に対するマナーや注意事項なども併せて発信することで、サイト訪問者への湿原保全へのメッセージ発信にも一役買っているものと思われる。

2005 年度具体的取組み 報告

取組み概要	自然保護を目的とする学生組織「F・A ネットワーク」と協力してワークキャンプを実施します	
主催者	財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ 全国 12 ヶ所にあるサンクチュアリのひとつとして、ここではタンチョウ保護活動(繁殖地の保全・管理、タンチョウの調査、給餌、施設来訪者への解説など)を行っている。	
取組みのねらい	いろいろな人に対する自然再生参加の機会を増やす取組みのひとつとしてワークキャンプの実施・受入れを行います	
実施の様子	日時・会場	8月24日(水)～31日(水) 鶴居村 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
	参加者数	9人(男性3名 女性6名)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ F Aネットワークでは、毎年大学生の春休みと夏休みを利用して、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ、キナシベツ湿原、霧多布湿原、ウトナイ湖サンクチュアリでワークキャンプを行っている。 ・参加者は、9名中5名が鶴居もワークキャンプも初めてであった。学校は皆バラバラで、関東6名、関西2名、北海道1名であった。 ・参加者の中には、今回でキナシベツ、霧多布、鶴居、ウトナイの4箇所を制覇した人もいた。 ・今回のサンクチュアリでの滞在は1週間で、スタッフ指導の下いろいろな作業を行う。 ・今回の作業は看板づくり、保護区のハンノキ萌芽調査、保護区の標識設置(根室)が行われた。 ・作業の傍ら、スタッフからタンチョウの話や現地の自然に関する話も聞くことができ参加者は学びながら作業することが出来る。 ・今回の滞在費用は2万2千円。宿泊は鶴居合宿研修所を利用した。 ・参考:F Aネットワーク http://www005.upp.so-net.ne.jp/fan/ 	
	<p>参加者の感想</p> <p>本物の湿原を見たのは初めてで、良い体験ができた。 タンチョウ保護の現状と、湿地について学ぶことができた。 (キャンプに参加することの楽しみは何ですか?の質問に)共同作業することで仲間が出来ること。</p>	
		
	看板 づくり	看板 完成



看板 づくり



標識設置



ハンノキ萌芽調査(1)



ハンノキ萌芽調査(2)



地域の人との交流会(1)



地域の人との交流会(2)

主催者の感想

- ・以前からFAネットワークの学生を受入れていることもあり、サンクチュアリでの作業や様子は代々先輩達からメンバー達に伝わっているので、事前に学習してもらうことは特にありません。
- ・ワークキャンプを受入れることのメリットは、少人数では出来ない作業を学生たちの協力により行えること、長期滞在で通常の観光客よりも現地のことをより深く知ってもらえること、学生たちが他の場所でサンクチュアリの活動を広めてくれることです。
- ・逆に大変なこと(デメリット)は、ボランティア活動の事前準備、当日活動の調整などコーディネートに多くの時間をとられる、ということです。
- ・学生たちは単なる労働力として来るのではなく、個々に目標を持ってきている。学生の希望を受入れてあげることも大事であり、そのために事前に学生の希望を十分聞くことが必要だと考えている。万が一に備えて病院や保険に関する準備も入念にしておくことも大事です。
- ・ワークキャンプ終了後も学生たちがワークキャンプを通してどんなことを学ぶことができたのか、学生たちにどんなことを伝えることができたのかを振り返ることも必要である。

成果(評価)

- | | |
|------|----------------------|
| 評価手法 | 参加者数:9名 実施内容:実施の様子参照 |
|------|----------------------|
- ・地元外の学生が長期滞在し、タンチョウや釧路湿原について学びながら保護活動に貢献する貴重な機会となっている。
 - ・ワークキャンプという観光とは異なるフィールドの活用が継続的に行われており、交流や人材育成にも貢献しているものと思われる。そのノウハウの集積も財産である。

主催者・協力者 応募用紙 (記入方法)

氏名・団体名 (代表者名)		個人の方は、所属(学校や会社など)もお書きください	
取 組 み	内容	実施、または予定している取組みの内容をお書きください。	
	時期・回数	取組みの開催予定時期や回数など、わかる範囲で結構ですでお書きください	
	ねらい	ご応募くださる取組みが、行動計画のどの部分に該当するか、お書きください。 または、「ホスピタリティのひとつとして」や「自然体験の機会を設ける」など独自のねらいがありましたらお書きください。	
連 絡 先	担当者名		
	住所		
	電話番号		
	E-mail		

WG や協議会に依頼したいこと(例：講師派遣・紹介、パネル展示、他団体の紹介など)

**他団体との共催で開催したい、なことをしてくれる団体はないか? など
ご相談等がありましたらお書きください。**

今回応募することでどんな事を期待していますか

例：広報・周知、活動のPR、行動を起こすきっかけとなった、など

その他

みなさまの団体(組織)について教えてください

**みなさまの団体・組織をご紹介する際に活用させていただきます。
団体の特徴や活動内容、目的など、宣伝・PRをお書きください。**

再生普及行動計画WG事務局 FAX : 0154 - 56 - 2267

ファックス、郵送、または添付ファイルにてお送りください

ご応募いただきました取組みは、再生普及行動計画ワーキンググループ、再生普及小委員会にて承認された後、公開される予定です(5月頃を予定)。ご了承ください。

トイレのあり方検討会

060303 資料 1

釧路川におけるトイレのあり方検討会について

1 打合わせ、検討会等

(1) 打合わせ「施設整備に係るワーキンググループの設置について」H14.11.25：開建
トイレ等施設整備に係るワーキンググループの設置の必要性、検討内容、スケジュール、構成メンバーなど検討会を設置する際の具体的な打ち合わせ

(2) (開建への回答) 湿原保全のソフト施策について H14.12.10

- ・カヌーガイドライン作成ワークの検討で施設整備が必要となれば、「施設整備担当」として独立させることが望ましい
- ・カヌー利用を想定した施設の多くは釣りなど多様な利用形態に対応するべきなので、それぞれの利用形態に対応したガイドラインも検討する必要がある
- ・カヌーガイドライン作成ワークの構成メンバーには関係市町村及び関係者も加えるべき

施設整備については地元の協力が不可欠であるため。多角的な検討が必要なため。

(3) 第1回検討会(合庁会議室。平成15年3月26日10:00～11:45)

検討内容：検討会設置の趣旨説明、アンケート調査について

(4) 第2回検討会(釧路教育局会議室。平成16年3月24日10:00～12:00)

* 湿原再生小委員会の開催経緯

- ・当面はトイレの新設は行わず既存トイレの活用を推進(案内板の設置等誘導策)
- ・トイレを設置した場合の問題点等を明記
- ・トイレ設置場所等の情報を利用者(カヌー等)に周知する方策に取り組む

* 共通認識と行動方針(トイレ、ごみ問題について)

- ・細岡カヌー発着場など頻繁に利用されている場所にはトイレの設置が必要である
- ・釧路川及び釧路湿原に設置されている既存トイレの活用を促進するため、既存トイレの場所や使用可能な期間等の情報を提供する必要がある
- ・利用マナーの向上を図るため、カヌー乗降箇所にはごみの投げ捨て禁止等の看板を設置するべきである
- ・利用者の自然利用に対する自己責任、事故管理等の意識改革を働きかけることが先決である

* トイレのあり方調査結果報告

* カヌー利用におけるトイレに係る先進事例

(手塩、四万十、グランドキャニオン、大雪)

2 調査

(1) トイレのあり方調査 (H15.8)

調査結果概要：

- ・平成15年度年間利用者数8,672人
- ・年間利用者数、ピーク時1日当たりの利用者数の状況
 - 〔 釧路湿原（塘路湖、細岡）発着地点の利用者が全体の3分の2
 釧路川上流部（源流、美登里橋）も湿原に次いで多くの利用がある
- ・カヌー乗務時間：平均2時間（最短1時間30分、最長3時間30分）
- ・既存トイレの利用状況
 - 〔 ・「知っている利用する」：半数からそれ以上
 - 〔 ・「知っている利用しない理由」：「営業区域外」が最も多く
 次いで「不便、近くにない」「汚い」
 - 〔 ・トイレが近くにない発着場では、「野外で排泄」が約3割、
 「トイレまで我慢」が同程度
- ・トイレ設置の必要性
 - 〔 細岡、岩保木水門では「設置した方がよい」がやや優勢
 - 〔 その他6カ所では設置の「必要はない」の方が多い
- * 既存トイレを活用
 - 〔 「乗船前に場所をおしえる」が最も多く
 - 〔 次いで「連れて行く」「聞かれたら案内」「案内標識を設置」の順
 - 別寒辺牛川ではこのような意見は出ていない。どうしてか？
- ・維持管理
 - 〔 行政で負担が約5割
 - 〔 利用者負担が約2割
 - 〔 （内訳：有料トイレ、ツアー料金に上乗せ、事業者等関係者で共同負担）

(2) 現在設置されているトイレの実態調査 (H15.5.30)

設置場所、管理者、トイレ台数など実態の詳細を調査。

今後の予定 支庁案

平成18年3月3日	小委員会	* 今後の検討会の方向性を報告、承認（湿原利用のあり方検討会）
3月下旬	第3回検討会	検討会構成メンバー（当面は行政機関のみ）
～4月上旬		* 現況の検討結果報告
未定	第4回検討会	* 小委員会用に現況の検討結果報告書を完成させる

060303 資料 2

トイレのあり方検討会現況の検討結果中間とりまとめ【概要】

1 検討会（2回実施）

トイレについて

- ・頻繁に利用されているポートにはトイレの設置が必要（細岡など）
 - ・当面はトイレの新設は行わず既存トイレの活用を推進
案内板の設置、パンフレットの配布等誘導策を工夫
使用可能な期間等の情報を提供する
- 共通認識と行動方針（トイレ、ごみ問題について）
- ・利用マナーの向上のために
カヌー乗降箇所にはごみの投げ捨て禁止等の看板を設置するべきである
自己責任、事故管理等の意識改革に働きかける

2 トイレ調査

（1）トイレのあり方調査（H15.8）

- ・年間利用者数、ピーク時1日当たりの利用者数の状況
- ・既存トイレの利用状況
- ・トイレ設置の必要性
- ・維持管理を誰がすべきか？

（2）現在設置されているトイレの実態調査（H15.5.30）

設置場所、管理者、トイレ台数など実態の詳細を調査

3 トイレの新設は必要か？

- ・検討会立ち上げ当初のトイレ増設要望は、主にカヌー利用者からよせられていた
- ・カヌー利用ガイドブックの配布後は、トイレの設置場所がある程度周知され新設の要望は来ていない
- ・カヌー利用者にとって便利な場所にトイレを作ると、他の湿原利用者にも公平になるよう利便施設を新たに作らなければいけない 自然公園内が施設だらけになる

検討会設置の目的（議論）を変更する必要がある 湿原利用のあり方検討会

* 湿原利用者はカヌーだけではない（釣り、散策者、写真家等）

「自然はみんなのもの」。特定のレジャーに限定するのではなく多くの人に親しんでもらい、さらに自然への負荷も最小限にすることを考えなければいけない

* 釧路湿原利用マナーの10ヶ条 釧路支庁案

- ・持続的利用、賢い利用（生態系への影響を小さくする）を目的とする
- ・湿原利用の憲法ではなく、毎年課題を反映させ解決に導くことができるよう容易に変更可能で柔軟なものを作成する（利用者や住民の共通認識をつくるため）
すでに国立公園等で作成されているカントリーコード等を参考に作成し。その後、各資料形態（カヌー、つり、ウォーキングなど）に応じルールの細目を具体的に作っていくことにする
- ・自然を利用する際の不便さを認識させる（利便性を高める施設が全てではない）